

令和3年度執行事務事業

施策名	基本事業	番号	事務事業名
文化芸術活動の推進	文化芸術活動の推進	1	美術館運営協議会運営事業
		2	佐野市に関する美術作品等調査研究事業
		3	美術館展覧会開催事業
		4	美術館講座等開催事業
		5	日本博物館協会参画事業
		6	栃木県博物館協会参画事業
		7	全国美術館会議参画事業
		8	天明鑄物のまちづくり推進事業
		9	天明鑄物地域おこし協力隊員設置事業
		10	佐野ルネッサンス鑄金展開催事業
		11	子どもふれあい文化芸術事業
		12	全国大会等出場者支援事業

事務事業名		美術館運営協議会運営事業					評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)		
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり					事業区分	担当	担当部	産業文化スポーツ部	担当課	文化推進課
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり						担当組織	担当係	吉澤記念美術館	担当課長名	上岡幸宏
	施策	1 文化芸術活動の推進						新規事業・継続事業	継続事業			
	基本事業	1 文化芸術活動の推進						実施計画事業・一般事業	一般事業			
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名		市単独事業・国県補助事業	市単独事業			
	14961	一般	10	4	7	美術館運営協議会運営事業		任意的事業・義務的事業	任意的事業			
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	H14年度～ 年度		根拠法令 条例等	博物館法 佐野市立美術館条例		実施方法	直営			
								事業分類	審議会・協議会等運営事業			
								リーディングプロジェクト	該当なし			
								市長市政公約				

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)		令和3年度実績(令和3年度に行った主な活動内容)					
美術館の諮問機関として設置した「佐野市立美術館運営協議会」を開催し、委員から美術館の運営に関しての意見や要望などを聞き、施設の運営や事業に活かしていく。協議会を年1回開催する。		新型コロナの影響により、未開催。					
活動指標		単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
会議開催回数		回	1	1	1	0	0

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

美術館運営協議会 美術館運営協議会委員		対象指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
		美術館運営協議会委員数	人	10	10	10	10	10

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

目的 美術館を円滑かつ効果的に運営できるように、委員から貴重な意見や助言を頂く。		成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
		意見・助言数	件	3	3	3	0	0

④ 結果(どのような結果に結びつけますか?)

芸術活動に取り組んでいる市民の活動の発表が積極的に行える。		上位成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
		文化活動団体の登録数	団体	109	110	107	103	96

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)		H30年度(実績)		R1年度(実績)		R2年度(実績)		R3年度(実績)	
	国庫支出金	千円										
	県支出金	千円										
	地方債	千円										
	その他	千円										
	一般財源	千円	69		61		53		0		0	
	事業費計(A)	千円	69		61		53		0		0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			委員報酬	69	委員報酬	61	委員報酬	53	委員報酬	0	委員報酬	0
人件費	人	3		3		4		3		3		
のべ業務時間	時間	22		22		22		22		22		
人件費計(B)	千円	84		84		84		80		80		
トータルコスト(A)+(B)	千円	153		145		137		80		80		

事務事業名	美術館運営協議会運営事業	担当部	産業文化スポーツ部	担当課	文化推進課	担当係	吉澤記念美術館
-------	--------------	-----	-----------	-----	-------	-----	---------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	葛生町の旧家から平成12年3月に美術品の寄贈、平成14年3月に建物の寄贈を受け、6月に吉澤記念美術館を開館した。それに伴い、美術館の円滑な運営を行うため、運営協議会を設置した。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	少子高齢化の影響もあり、市の財政状況は一層厳しさが増しているため、事業費削減に努めている。そんな中で、いかに充実した展覧会を開催することができるか、今後の施策方針など、美術館の機能の充実と円滑な運営について、様々なジャンルの方々(教育関係者・美術館関係者・観光関係者等)からの多角的な助言をいただくことができています。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	今後の美術館運営について、次のような意見をいただいた。 ・教育委員会だけでなく、佐野市行政を巻き込んだ事業展開をしてほしい。 ・ディスティネーションキャンペーンへの参加など外国人観光客にむけた取組を考えてほしい。 ・館内のみではなく、池や垣根など美術館敷地全体の維持管理を心掛けてほしい。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案	美術館の運営・事業に関する意見をいただき、提言を取り入れることによって、より良い美術館運営が図れている。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案	各層の有識者からなる委員の意見を聞き入れることは、円滑な運営をはかっていくうえで重要なことである。仮に直営でなくなったとしても、運営に関することは根本的なことなので、美術館運営がある限り、市が行うべきことである。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案	市内外の各層から、それぞれの目線で審議していただき、助言をいただくことを目的としているため、対象と意図は合致している。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がない	理由・改善案	美術館運営協議会委員は、関係機関や学識経験者及び関係団体の代表者で構成されている。委員の資質は高く、毎回様々な意見をいただいております、すでに会議の活性化は図れている。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案	類似事務事業名
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案	事業費は、年1回開催の運営協議会に伴う委員報酬であり、削減の余地はない。人件費についても必要最低限の時間で対応しており、これ以上削減の余地はない。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？ 事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	受益者負担を求める必要がない	理由・改善案	受益者負担にはそぐわない事業である。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？) 円滑・適正な美術館運営をはかるために運営協議会は設置されており、多くの参考意見を聞くためにも美術館運営の諮問機関である協議会を廃止・休止することはできない。			

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																							
現状維持(従来通り実施) * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)	<p>廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○	×																					
	低下		×	×																					

事務事業名		佐野市に関する美術作品等調査研究事業					評価区分(事前評価・事後評価)		事後評価(A・B表)		
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり					担当組織	担当部	産業文化スポーツ部	担当課	文化推進課
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり					担当係	担当係	吉澤記念美術館	担当課長名	上岡幸宏
	施策	1 文化芸術活動の推進					新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	1 文化芸術活動の推進					実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	14961	一般	10	4	7	佐野市に関する美術作品等調査研究事業					
	事業区分		市単独事業・国県補助事業		市単独事業		任意的事業・義務的事業		任意的事業		
	実施方法		直営		事業分類		その他市民に対する事業				
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	H14年度～ 年度		根拠法令等	博物館法 佐野市立美術館条例					
	リーディングプロジェクト		該当なし		市長市政公約						

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)										
事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)					令和3年度実績(令和3年度に行った主な活動内容)					
各種資料の収集や、美術館所蔵作品及び佐野市ゆかりの美術作品等の調査研究を行う。その研究成果を、展覧会展示に活用する。					① 収蔵品・借用品の調査及び整理 ② 佐野市関連作品の所蔵家訪問調査・各種問合せ対応 ③ 関連資料の収集・調査・・・尾形乾山に関する作品調査等 ④ 吉澤家文書の栃木県文書館との分蔵					
活動指標					単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
展示用資料購入・寄贈寄託受入点数					件	0	0	0	3	1,983
研究用図書購入・文献複写資料収集件数					件	274	292	246	235	230
実地調査件数(関係者訪問等)					回	22	42	21	41	40
② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)										
・美術館収蔵品(所蔵品・寄託品)・借用品 ・訪問調査等を行った佐野市に関する美術作品及び関連資料					対象指標					
					単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
美術館収蔵作品数					点	1,476	1,476	1,476	1,479	3,462
収蔵品以外の美術作品調査数					点	351	602	498	1,523	500
③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)										
① 佐野市関連の美術作品及び収蔵品に関する情報収集により、各作品の芸術的・歴史的意義を明らかにする。 ② 研究成果を展覧会展示や解説パンフレット・図録などにより広く公開する。 ③ 他館での展覧会に当館所蔵作品を貸し出すことにより、作品の存在や歴史的な位置づけ、さらに当館の存在等を広める。					成果指標					
					単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
展覧会で新しい情報を提示できた作品数					点	164	164	110	129	50
解説パンフレットや図録などの発行回数					回	1	1	1	13	3
収蔵作品の他館への貸出数					点	1	4	13	19	2
④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)										
佐野市に関する作品等の調査を重ねることにより、企画展のさらなる充実を図り、文化・芸術に触れる機会を充実を図る。気軽に文化・芸術に触れられる。					上位成果指標					
					単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
吉澤記念美術館入館者数					人	5,158	8,127	3,353	1,332	2,985

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費投入量	財源内訳		H29年度(実績)		H30年度(実績)		R1年度(実績)		R2年度(実績)		R3年度(実績)	
	単位											
事業費の内訳	国庫支出金	千円										
	県支出金	千円										
	地方債	千円										
	その他	千円										
	一般財源	千円		618	932	550	683	254				
	事業費計(A)	千円		618	932	550	683	254				
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			報償金	20	報償金	30	報償金	0	報償金	20	報償金	10
			報償物資費	12	報償物資費	20	報償物資費	2	報償物資費	10	報償物資費	0
			費用弁償	5	費用弁償	23	費用弁償	0	費用弁償	9	費用弁償	8
			普通旅費	5	普通旅費	31	普通旅費	22	普通旅費	9	普通旅費	0
			消耗品費	34	消耗品費	52	消耗品費	21	消耗品費	52	消耗品費	50
			役務費	14	役務費	226	役務費	128	役務費	233	役務費	141
委託料			497	委託料	500	委託料	377	委託料	300	委託料	0	
庁用器具費	30	庁用器具費	50	庁用器具費	0	庁用器具費	50	庁用器具費	45			
正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1						
のべ業務時間	時間	100	100	100	100	100						
人件費計(B)	千円	382	382	382	364	364						
トータルコスト(A)+(B)	千円	1,000	1,314	932	1,047	618						

事務事業名	佐野市に関する美術作品等調査研究事業	担当部	産業文化スポーツ部	担当課	文化推進課	担当係	吉澤記念美術館
-------	--------------------	-----	-----------	-----	-------	-----	---------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成13年度美術館開設準備室の設置に伴い開始した。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	少子高齢化による社会保障費の増大などにより、市の財政状況は一層厳しさが増しているため、事業費削減に努めている。 美術作品を収集してきた方が高齢になり、作品の調査依頼が増えてきている。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	催事のアンケートなどで、「市立美術館として、市内全域にある美術品や、市に関連した作家の作品も収集展示してほしい」との要望がある。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案	佐野市に関する美術・文化に関する調査を行うことは、佐野市立美術館条例の趣旨に沿うものであり、政策体系に結びついている。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案	文化遺産は地域全体の物であるという、公共性・公平な評価の必要性という観点や、博物館法や佐野市立美術館条例においても事業として規定されていることから、市が行うことは妥当である。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案	現在の当館所蔵品はほとんどが1個人の寄贈によるものであり、佐野市関連の作品の比率は高くない。佐野市に関する美術作品及び資料の調査研究を行うことは、さらに魅力のある美術館に発展させるためには妥当である。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がある程度ある	理由・改善案	調査研究にかかる時間を今以上に確保することにより、さらに成果の向上は見込める。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案	類似事務事業名 *類似事務事業があれば、名称を記入
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案	調査研究のための委託料が主な内容であり、これ以上の削減余地はない。
公平性 評価	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	現在の受益者負担は適正である	理由・改善案	研究の成果の公表場所である展覧会で観覧料を徴収している。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？) 作品調査や研究が実施できなくなると、その成果を展覧会展示に活かすことができなくなり、展覧会自体の魅力が失われ、集客が図れない可能性がある。			

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																							
現状維持(従来通り実施) * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)	<p>廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○	×																					
	低下		×	×																					

事務事業名	美術館展覧会開催事業					評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)		
	担当組織	担当部	担当係	担当課	担当課長名	産業文化スポーツ部	吉澤記念美術館	文化推進課	上岡幸宏		
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり				事業区分	新規事業・継続事業			継続事業	
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり					実施計画事業・一般事業			一般事業	
	施策	1 文化芸術活動の推進					市単独事業・国県補助事業			市単独事業	
	基本事業	1 文化芸術活動の推進					任意的事業・義務的事業			任意的事業	
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	14961	一般	10	4	7	美術館展覧会開催事業					
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	H14年度～ 年度		根拠法令 条例等	博物館法 佐野市立美術館条例					
						実施方法			直営		
						事業分類			その他市民に対する事業		
						リーディングプロジェクト			該当		
						市長市政公約					

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)	令和3年度実績(令和3年度に行った主な活動内容)					
芸術に触れる機会の充実を図り、美術への関心を深めてもらうため、所蔵企画展や特別企画展を開催する。また、地域交流センターでの自主事業を実施する。 ・年4回の企画展の実施・地域交流センターでの自主事業の実施	・企画展の開催 「齊藤勝美展」 「みやび」 「画面のモンダイ」 「放菴と寛方」 「王欽古」					
活動指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
所蔵企画展の開催数	回	2	3	3	2	2
特別企画展の開催数	回	2	1	1	1	3

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

・市民 ・美術愛好者	対象指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
	佐野市の人口	人	120,018	119,348	118,450	117,706	115,700
	北関東地方(3県)の人口	人	6,864,346	6,850,463	6,815,692	6,856,391	6,893,507

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

展覧会を観覧して満足してもらい、美術への関心を深めてもらう。	成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
	「見て満足した」と答えた入場者(アンケート回答より)	%	71.3	71.3	89.7	100	99.1
	美術館企画展観覧者数	人	5,158	8,127	3,353	1,332	2,985

④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)

気軽に文化・芸術に触れられる	上位成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
	吉澤記念美術館入場者数	人	5,158	8,127	3,353	1,332	2,985

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)			
	国庫支出金	千円								
	県支出金	千円								
	地方債	千円								
	その他	千円	1,457	170		136	0			
	一般財源	千円	2,090	5,089	3,164	4,631	3,782			
	事業費計(A)	千円	3,547	5,259	3,164	4,767	3,782			
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			報償金	5	普通旅費	10	報償金	0	報償金	0
			普通旅費	0	消耗品費	55	旅費	6	旅費	16
			消耗品費	54	通信運搬費	1,239	消耗品費	50	消耗品費	36
			通信運搬費	1,317	損害保険料	86	通信運搬費	469	通信運搬費	229
			損害保険料	17	業務委託料	312	損害保険料	27	損害保険料	1
			業務委託料	201	作成委託料	2,566	業務委託料	443	業務委託料	492
			作成委託料	1,953	使用料	11	作成委託料	2,157	作成委託料	3,993
使用料			0	負担金	982	使用料	12	使用料	0	
正職員従事人数			人	4	4	4	4	4		
のべ業務時間	時間	1,320	1,320	1,320	1,320	1,320				
人件費計(B)	千円	5,037	5,044	5,036	4,801	4,800				
トータルコスト(A)+(B)	千円	8,584	10,303	8,200	9,568	8,582				

事務事業名	美術館展覧会開催事業	担当部	産業文化スポーツ部	担当課	文化推進課	担当係	吉澤記念美術館
-------	------------	-----	-----------	-----	-------	-----	---------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成14年6月の美術館開館に伴い開始した。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	少子高齢化による社会保障費の増大などにより、市の財政状況は一層厳しさが増しているため、事業費削減に努めている。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	入館者アンケートでは、「素晴らしい展示内容でした。」「説明が分かりやすい。」などの感想があった。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善(成果向上の見直し)	新型コロナの影響で、斎藤勝美展が一部延期になったが、会期を延ばした。

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案	企画展開催による美術に親しむ機会の提供は、美術に関する市民の知識と教養の向上と地域社会の文化振興に寄与することを目的とする佐野市立美術館条例の趣旨に沿うものであり、政策体系に結びついている。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案	実利を目的とする指定管理者制度では、すぐれた作品を鑑賞・発表する機会を提供し、地域社会の文化振興に寄与するという美術館の役割を果たすことは難しいと思われる。また、市が直接管理運営することにより、収益性の低い調査研究事業や地元作家の企画展等も、目先の利益にとらわれず、継続的に取り組むことができる。
有効性 評価	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案	美術館の優れた所蔵作品等を展示し、作品にふれる機会を提供することは、今後ますます地域に開かれ、人々が集い、親しまれる美術館の構築を目指す点からも妥当である。又、生きがいや生きる目的を見失いがちな現代人にとって、癒しの力を持つ芸術を扱う美術館の存在は、今後ますます重要になってくると思われる。
	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がない	理由・改善案	所蔵企画展に加え、特別企画展の開催や、他館からの作品借入も視野に入れての展覧会を構成することにより、観覧者の心に残る展覧会を提供し、入館者の増加につなげることは可能だと考えられる。また、小中学生や障がい者の観覧者を増やしていくよう引き続き市内外に周知を図りたい。
効率性 評価	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案	類似事務事業名
	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案	連年のコスト削減により、必要最小限の事業費で実施している。また、年6回実施していた企画展を平成22年度からは年5回に、平成28年度からは年4回に減らしている。これ以上の展覧会回数の減は、美術館としての魅力を落とし、入場者数の減少につながるおそれ大きい。
公平性 評価	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？ 事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	現在の受益者負担を見直す必要がある	理由・改善案	入館者は市内外に及んでおり、観覧料を徴収することは適正である。また、平成24年度からは、大学生以下と身体障がい者等については無料化を図っており、観覧の機会を広げている。
	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)	本事業は、美術館運営の中核を成す事業である。本事業を休止・終了することは美術館の存続にかかわる事であり、休止・終了はできない。		

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																							
事業のやり方改善(成果向上の見直し) * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。(複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。) 他館や個人の方から作品を借用した展示会を開催し、来館者を楽しませる工夫を重ねていく。 ポスター、チラシの配布先や雑誌やインターネットなどを利用した広報活動を工夫し、展覧会の周知に心掛ける。	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td colspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上		○		維持			×	低下		×	×	
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上		○																						
	維持			×																					
	低下		×	×																					

事務事業名		美術館講座等開催事業					評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)			
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり					事業区分	担当	担当部	産業文化スポーツ部	担当課	文化推進課	
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり						担当組織	担当係	吉澤記念美術館	担当課長名	上岡幸宏	
	施策	1 文化芸術活動の推進						新規事業・継続事業	継続事業				
	基本事業	1 文化芸術活動の推進						実施計画事業・一般事業	一般事業				
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名							
	14961	一般	10	4	7	美術館講座等開催事業							
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	H14年度～ 年度			根拠法令等	博物館法 佐野市立美術館条例						
							市単独事業・国県補助事業	市単独事業					
							任意的事業・義務的事業	任意的事業					
							実施方法	直営					
							事業分類	講座・教室・イベント等開催事業					
							リーディングプロジェクト	該当なし					
							市長市政公約						

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)	令和3年度実績(令和3年度に行った主な活動内容)						
美術館において、展覧会以外に、講演会・体験教室・コンサート等、美術館や美術に親しむ機会を提供する。 メインとなる企画展の理解を一層深めるため、スケジュール・内容を組む。 令和元年度は、恒例の地元葛生の特産品石灰を使ったフレスコ画教室を1回、2000年以降美術館周辺核施設に制作されてきたフレスコ壁画の見学会を3回・陶芸教室を実施した。講演会とコンサートは災害等の影響により中止した。	陶芸教室 1回						
	活動指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
	講座等開催数	回	13	10	3	0	1

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

・市民 ・講座受講者	対象指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
	佐野市の人口	人	120,018	119,348	118,450	117,706	115,700
	講座定員数	人	180	185	35	0	15
	講座参加者数	人	255	203	40	0	14

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

① 講座への参加をきっかけに、郷土や美術への理解を深めてもらう。 ② 美術鑑賞の楽しみ方や美術館の魅力を知ってもらう。	成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
	参加者に対する市民の割合	%	82.0	48.6	42.1	0	55.0
	定員に対する受講者の割合	%	137.2	109.7	114.3	0	93.3
	満足を感じた人の割合(アンケート回答より)	%	75.3	78.5	89.4	0	100.0

④ 結果(どのような結果に結びつけますか?)

地域の歴史・文化資源について学んでもらい、郷土を育む心が育つ。	上位成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
	企画展開催・記念講演・図録及び要覧等発行件数	件		17.0	7.0	0	6

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)		H30年度(実績)		R1年度(実績)		R2年度(実績)		R3年度(実績)	
	国庫支出金	千円										
	県支出金	千円										
	地方債	千円										
	その他	千円			23		14		60			42
	一般財源	千円		32	71		66		92			21
	事業費計(A)	千円		32	94		80		152			63
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			報償金	70	報償金	60	報償金	50	報償金	0	報償金	20
			消耗品費	24	消耗品費	28	消耗品費	26	消耗品費	0	消耗品費	42
食糧費			4	食糧費	6	食糧費	4	食糧費	0	食糧費	1	
人件費	人	3	3	3	3	3	3	3	3			
のべ業務時間	時間	150	150	150	150	150	150	150				
人件費計(B)	千円	572	573	572	546	545						
トータルコスト(A)+(B)	千円	604	667	652	698	608						

事務事業名	美術館講座等開催事業	担当部	産業文化スポーツ部	担当課	文化推進課	担当係	吉澤記念美術館
-------	------------	-----	-----------	-----	-------	-----	---------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成14年開館記念展の講演会の開催を契機に、展覧会のみではなく、実技体験・講座・コンサートなどの事業も、芸術への理解を深め、美術館を活性化させるための重要な活動の一つであると考え開始した。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	国内の美術館情勢を見ると、教育普及活動の一環でもある講座開催の重要性はますます深まっている。また、県内でもこれらの活動に関する情報交換は盛んになってきている。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	講座参加者からは、体験型ものは、「他にない良い講座で楽しかった。」との感想が寄せられた。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案	市民に対し講座参加の機会を提供することは、地域社会の文化振興に寄与することを目的としている佐野市立美術館条例の趣旨に沿うものであり、政策体系に結びついている。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案	広く生涯学習の機会を提供することは、美術鑑賞になじみにくさを感じている人にも受け入れやすく、公平性からみても、市が行うことは妥当である。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案	講座参加者のうち佐野市民の占める割合は高い。また、毎回参加率は高く、児童・生徒や、美術館への来館頻度の少ない層の参加も常に一定数見られ、美術館利用者の多様化に貢献していることから、対象と意図は妥当である。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がない	理由・改善案	毎年開催しているフレスコ画体験教室・陶芸教室を除き、その時々展覧会に合わせて行っている。したがって、毎回レベルアップの努力をしているのが実情である。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案	類似事務事業名
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案	フレスコ画体験教室では、地元の関連団体から、毎年画材の提供を受けている。消耗品等は、できるだけ在庫の物を利用しており、これ以上の事業費の削減は難しい。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	現在の受益者負担は適正である	理由・改善案	講座では、参加者から材料費相当の負担金を徴収しており、受益者負担は適正である。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？) 参加者からは継続して実施を望む声が多い。 また、体験教室・講座等、市民の文化向上のため美術館独自のものとして定着、好評であり、廃止すべきではない。			

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																							
現状維持(従来通り実施) * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○	×																					
	低下		×	×																					

事務事業名		日本博物館協会参画事業					評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)			
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり					事業区分	担当組織	担当部	産業文化スポーツ部	担当課	文化推進課	
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり						担当係	吉澤記念美術館	担当課長名	上岡幸宏		
	施策	1 文化芸術活動の推進						新規事業・継続事業	継続事業				
	基本事業	1 文化芸術活動の推進						実施計画事業・一般事業	一般事業				
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名							
	14961	一般	10	4	7	日本博物館協会参画事業							
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	H15年度～ 年度		根拠法令 条例等	博物館法 佐野市立美術館条例							
						市単独事業・国県補助事業	市単独事業						
						任意的事業・義務的事業	任意的事業						
						実施方法	直営						
						事業分類	参画事業						
						リーディングプロジェクト	該当なし						
						市長市政公約							

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)								
事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)		令和3年度実績(令和3年度に行った主な活動内容)						
日本博物館協会に、会員として負担金を支出している。また、全国博物館会議主催の会議や研修会参加や、機関誌購読をとおして、全国の美術館等の展示方法・参考資料等最新情報を得ることができる。 日本博物館協会とは、青少年及び成人に対する振興のための調査及び研究開発や指導・援助を行い、わが国の文化の発展に寄与することを目的として、全国およそ4,000館を会員として構成している団体である。		(市の活動) 日本博物館協会に負担金の支出 (日本博物館協会の活動) 総会・講演会・学芸員研修会等の開催 各種研究・調査結果を会員に情報提供						
		活動指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
		会議出席日数	回	0	0	0	0	0
		会議等出席者数(のべ人数)	人	0	0	0	0	0
		機関誌収集数	部	12	12	12	12	12
② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)								
①市職員(この会議の範囲で関係する職員)		対象指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
(対象団体) 日本博物館協会		対象職員数	人	4	4	4	4	4
③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)								
目的		成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
①美術館・博物館の全国的な傾向について類似施設の状況や最新情報を得る。		他館の状況や最新情報を得られていると感じている対象職員の割合	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
②教育普及活動や展示方法についての技術の向上を図る。		会議参画が有意義であると感じている職員の割合	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
④ 結果(どのような結果に結びつけますか?)								
芸術活動に取り組んでいる市民の活動の発表が積極的に行える。		上位成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
		文化活動団体の登録数	団体	109	110	107	103	96

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)		H30年度(実績)		R1年度(実績)		R2年度(実績)		R3年度(実績)	
	国庫支出金	千円										
	県支出金	千円										
	地方債	千円										
	その他	千円										
	一般財源	千円	30		30		30		30		25	
	事業費計(A)	千円	30		30		30		30		25	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			負担金	30	負担金	30	負担金	30	負担金	30	負担金	25
人件費	人	4		4		4		4		4		
のべ業務時間	時間	6		6		6		6		6		
人件費計(B)	千円	23		23		23		22		22		
トータルコスト(A)+(B)	千円	53		53		53		52		47		

事務事業名	日本博物館協会参画事業	担当部	産業文化スポーツ部	担当課	文化推進課	担当係	吉澤記念美術館
-------	-------------	-----	-----------	-----	-------	-----	---------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	時代の変化に応じた他館の状況や最新情報が得られること、又、展示や教育普及活動等当館の事業運営に活用し、館の充実を図るため、平成15年度から参画。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	美術館や博物館の運営に指定管理者制度や独立行政法人制度の導入が可能となり、運営形態は多様化してきている。 様々な美術や文化・芸術に関する情報をインターネット等を利用して活用する人が増加している。また、海外からの観光客の増加にむけた、多言語での日本文化の発信や対応が求められている。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	特になし

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている		理由・改善案	情報交換の場や機会を利用し、他の美術館・博物館から情報を得て当館の展示や事業運営に反映させることで、市民の文化・芸術活動の促進に貢献できる。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない		理由・改善案	美術館経営等の芸術文化事業は、収益性を追求する企業理念にそぐわない。美術館活動の振興のためのこの事業は、全国的な情報の収集手段として必要である。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である		理由・改善案	機関誌や報告書により他館からの最新情報が得られ、それらの情報を当館の運営に反映させることができる。講演会・研修会に参加することで、調査研究や、展示会の発想を得られることがある。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がない		理由・改善案	会議等の出席については、開催地・日程・予算等の問題があり参加は難しい。 ただし、機関誌等から得られる情報は十分に活かしている。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない		理由・改善案	類似事務事業名
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない		理由・改善案	会費の負担のみであり、事業費の削減の余地はない。人件費についても同様である。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	受益者負担を求めない		理由・改善案	美術館の運営を充実させるための行政内部の事業であり、受益者負担を求めない。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)				
団体に参画することで他館の状況や活動・動向に関する情報の収集・交換の機会や手段を得ることが可能となり、当館運営に役立つので、休止・廃止はできない。					

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																							
現状維持(従来通り実施)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td colspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○	×																					
	低下		×	×																					
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)																									

事務事業名		栃木県博物館協会参画事業					評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)	
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり					担当組織	担当部	産業文化スポーツ部	担当課	文化推進課
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり						担当係	吉澤記念美術館	担当課長名	上岡幸宏
	施策	1 文化芸術活動の推進					事業区分	新規事業・継続事業		継続事業	
	基本事業	1 文化芸術活動の推進						実施計画事業・一般事業		一般事業	
短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名	市単独事業・国県補助事業		市単独事業			
予算科目	14961	一般	10	4	7	栃木県博物館協会参画事業	任意的事業・義務的事業		任意的事業		
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	H15年度～ 年度		根拠法令 条例等	博物館法 佐野市立美術館条例	実施方法		直営		
							事業分類		参画事業		
							リーディングプロジェクト		該当なし		
							市長市政公約				

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)	令和3年度実績(令和3年度に行った主な活動内容)						
栃木県博物館協会に、会員として負担金を支出している。また、協会主催の会議や研修会に参加することにより、他美術館に関する情報収集や意見交換を行っている。	(市の活動) 栃木県博物館協会に負担金の支出						
栃木県博物館協会とは、県内の博物館等及びその関係者の連絡調整を図り、博物館事業の進展に寄与することを目的として、県内約100団体を会員として構成している。	(栃木県博物館協会の活動) 総会・講演会・学芸員研修会等の開催 機関誌の発行 会員への各種情報提供 H27から栃木県内「M割」(ミュージアム共通割引制度)の実施が始まった。						
	活動指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)
	会議出席日数	回	2	2	2	2	2
	会議等出席者数(のべ人数)	人	2	2	2	2	2
	機関誌収集数	部	1	1	1	1	1

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

①市職員(この会議の範囲で関係する職員)	対象指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)
(対象団体) 栃木県博物館協会	対象職員数	人	4	4	4	4	4

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

①美術館・博物館の県内の傾向について類似施設の状況や最新情報を得る。	成果指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)
②教育普及活動や展示方法についての技術の向上を図る。	他館の状況や最新情報を得られていると感じている対象職員の割合	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	会議参画が有意義であると感じている職員の割合	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

④ 結果(どのような結果に結びつけますか?)

	上位成果指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)	
	国庫支出金	千円						
	県支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円	5	5	5	5	5	
	事業費計(A)	千円	5	5	5	5	5	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			負担金	5	負担金	5	負担金	5
	人件費	人	4	4	4	4	4	
のべ業務時間	時間	6	6	6	6	6		
人件費計(B)	千円	23	23	23	22	22		
トータルコスト(A)+(B)	千円	28	28	28	27	27		

事務事業名	栃木県博物館協会参画事業	担当部	産業文化スポーツ部	担当課	文化推進課	担当係	吉澤記念美術館
-------	--------------	-----	-----------	-----	-------	-----	---------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	時代の変化に応じた他館の状況や最新情報が得られること、又、展示や教育普及活動等当館の事業運営に活用し、館の充実を図ることができるため、平成15年度から参画。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	美術館や博物館の運営に指定管理者制度や独立行政法人制度の導入が可能となり、運営形態は多様化してきている。 様々な美術や文化・芸術に関する情報をインターネット等を利用して活用する人が増加している。また、海外からの観光客の増加にむけた、多言語での日本文化の発信や対応が求められている。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	特になし

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている		理由・改善案	情報交換の場や機会を利用し、他の美術館・博物館から情報を得て当館の展示や事業運営に反映させることで、市民の文化・芸術活動の促進に貢献できる。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない		理由・改善案	美術館経営等の芸術文化事業は、収益性を追求する企業理念にそぐわない。美術館活動の振興は自治体の担うべき事業で、他館との相互連携を図る手段として必要である。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である		理由・改善案	機関誌や報告書により他館からの最新情報が得られ、それらの情報を当館の運営に反映させることができる。講演会・研修会に参加することで、調査研究や、展示会の発想を得られることがある。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がない		理由・改善案	外視察研修等については、予算上の問題もあり参加は難しいが、県内開催の会議への参加や、機関誌などから得られる情報から、県内各館との情報交換を行ったり、今後の美術館動向等の参考とすることができる。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない		理由・改善案	類似事務事業名
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない		理由・改善案	会費の負担のみであり、事業費の削減の余地はない。人件費についても同様である。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	受益者負担を求めない		理由・改善案	美術館の運営を充実させるための行政内部の事業であり、受益者負担を求めない。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)				
	団体に参画することで他館の状況や活動・動向に関する情報の収集・交換の機会や手段を得ることが可能となり、当館運営に役立つので、休止・廃止はできない。				

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																							
現状維持(従来通り実施)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td colspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○	×																					
	低下		×	×																					
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)																									

事務事業名		全国美術館会議参画事業					評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)			
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり					事業区分	担当組織	担当部	産業文化スポーツ部	担当課	文化推進課	
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり						担当係	吉澤記念美術館	担当課長名	上岡幸宏		
	施策	1 文化芸術活動の推進						新規事業・継続事業	継続事業				
	基本事業	1 文化芸術活動の推進						実施計画事業・一般事業	一般事業				
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名							
	14961	一般	10	4	7	全国美術館会議参画事業							
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	H15年度～ 年度			根拠法令 条例等	博物館法 佐野市立美術館条例						
							市単独事業・国県補助事業	市単独事業					
							任意的事業・義務的事業	任意的事業					
							実施方法	直営					
							事業分類	参画事業					
							リーディングプロジェクト	該当なし					
							市長市政公約						

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)	令和3年度実績(令和3年度に行った主な活動内容)					
全国美術館会議に、会員として負担金を支出している。また、美術館会議主催の会議や研修会に参加することにより、他美術館に関する情報収集や意見交換を行っている。	(市の活動) 全国美術館会議に負担金の支出					
全国美術館会議とは、美術館の使命を実現する活動を支援するため、国内の美術館相互の連絡及び連携を図ることを目的に、会員館と賛助会員で構成されている団体である。	(全国美術館会議の活動) 総会・講演会・学芸員研修会等の開催、その成果や各種情報を会員に提供する。					
活動指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
会議出席日数	回	0	0	0	0	0
会議等出席者数(のべ人数)	人	0	0	0	0	0
機関誌収集数	部	2	2	2	2	2

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

① 市職員(この会議の範囲で関係する職員)	対象指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
(対象団体) 全国美術館会議	対象職員数	人	4	4	4	4	4

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

目的	① 美術館の今後の動向や最新情報を得る。 ② 教育普及活動や展示方法についての技術の向上を図る。	成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
		他館の状況や最新情報を得られていると感じている対象職員の割合	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
		会議参画が有意義であると感じている職員の割合	%	100.0	100.0	100.0	100	100

④ 結果(どのような結果に結びつけますか?)

芸術活動に取り組んでいる市民の活動の発表が積極的に行える。	上位成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
	文化活動団体の登録数	団体	109	110	107	103	96

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)		H30年度(実績)		R1年度(実績)		R2年度(実績)		R3年度(実績)	
	国庫支出金	千円										
	県支出金	千円										
	地方債	千円										
	その他	千円										
	一般財源	千円	30		30		30		30		30	
	事業費計(A)	千円	30		30		30		30		30	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			負担金	30	負担金	30	負担金	30	負担金	30	負担金	30
	人件費	人	4		4		4		4		4	
のべ業務時間	時間	6		6		6		6		6		
人件費計(B)	千円	23		23		23		22		22		
トータルコスト(A)+(B)	千円	53		53		53		52		52		

事務事業名	全国美術館会議参画事業	担当部	産業文化スポーツ部	担当課	文化推進課	担当係	吉澤記念美術館
-------	-------------	-----	-----------	-----	-------	-----	---------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	時代の変化に応じた他館の状況や最新情報が得られること、又、展示や教育普及活動等当館の事業運営に活用し、館の充実を図ることができるため、平成15年度から参画。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	美術館や博物館の運営に指定管理者制度や独立行政法人制度の導入が可能となり、運営形態は多様化してきている。 様々な美術や文化・芸術に関する情報をインターネット等を利用して活用する人が増加している。また、海外からの観光客の増加にむけた、多言語での日本文化の発信や対応が求められている。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	特になし

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案	情報交換の場や機会を利用し、他の美術館・博物館から情報を得て当館の展示や事業運営に反映させることで、市民の文化・芸術活動の促進に貢献できる。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案	美術館経営等の芸術文化事業は、収益性を追求する企業理念にそぐわない。美術館活動の振興は自治体の担うべき事業で、他館との相互連携を図る手段として必要である。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案	機関誌や報告書により他館からの最新情報が得られ、それらの情報を当館の運営に反映させることができる。講演会・研修会に参加することで、調査研究や、展示会の発想を得られることがある。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がない	理由・改善案	会議等の出席については、開催地・日程・予算等の問題があり参加は難しい。 ただし、機関誌等から得られる情報は十分に活かしている。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案	類似事務事業名
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案	事業費は会費の負担のみであり、削減の余地はない。人件費についても同様である。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	受益者負担を求めない	理由・改善案	美術館の運営を充実させるための行政内部の事業であり、受益者負担を求める必要がない。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)	団体に参画することで他館の状況や活動・動向に関する情報の収集・交換の機会や手段を得ることが可能となり、当館運営に役立つので、休止・廃止はできない。		

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																							
現状維持(従来通り実施) * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○	×																					
	低下		×	×																					

事務事業名		天明鑄物のまちづくり推進事業				評価区分(事前評価・事後評価)		事後評価(A・B表)		
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり				担当	担当部	産業文化スポーツ部	担当課	文化推進課
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり				組織	担当係	天明鑄物まちづくり係	担当課長名	上岡幸宏
	施策	1 文化芸術活動の推進				新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	1 文化芸術活動の推進				実施計画事業・一般事業		実施計画事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名				
	2097	一般	2	1	17	天明鑄物のまちづくり推進事業				
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	R2年度～ 年度		根拠法令 条例等	事業区分		市単独事業・国県補助事業		市単独事業
								任意的事業・義務的事业		任意的事業
								実施方法		一部委託
								事業分類		講座・教室・イベント等開催事業
								リーディングプロジェクト		該当
								市長市政公約		

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)		令和3年度実績(令和3年度に行った主な活動内容)				
天明鑄物の認知度向上、ユーザー増、製品開発、販路開拓、後継者発掘といった、天明鑄物のまちづくり推進計画が掲げる目標を実践する取組として、市内外の人々に向けたワークショップや見学会等のイベントや講座の開催及び市内の観光スポット等での呈茶を実施することにより、移住・定住につながる関係人口の拡大を図る。 合わせて、天明鑄物の品質やブランド力を維持強化するために、地域団体商標登録を目指す。		<ul style="list-style-type: none"> 第3次天明鑄物のまちづくり推進計画の策定(計画期間:R4～7年度) 市内推進委員会 2回、策定懇談会(外部委員10名) 2回 天明鑄物地域団体商標登録出願 佐野市天明鑄物振興協議会を中心に資料収集作業を行い、佐野商工会議所を出願人として出願。 出願に要する費用総額の2分の1の額を補助金として佐野商工会議所に交付した。 				
活動指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
イベント等の開催回数	回				0	0
イベント等の参加人数	人				0	0

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

市民	対象指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
	人口	人				117,706	116,982

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

天明鑄物の歴史と価値に気づき、本市の宝として誇りを持つ。	成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
	市政アンケートの結果(天明鑄物の認知度)	%				69.0	69.3

④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)

特色ある地域資源の活用を図る。	上位成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
	天明鑄物フェイスブックアクセス数	件	124,905	51,739	12,106	7,838	41,525

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)		H30年度(実績)		R1年度(実績)		R2年度(実績)		R3年度(実績)	
	国庫支出金	千円										
	県支出金	千円										
	地方債	千円										
	その他	千円										
	一般財源	千円							8			164
	事業費計(A)	千円		0	0	0	0	8			164	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
									需用費	8	報償費	45
											負担金、補助及び交付金	119
人件費	人							2		2		
人件費	時間							170		270		
人件費計(B)	千円		0	0	0	0	618			982		
トータルコスト(A)+(B)	千円		0	0	0	0	626			1,146		

事務事業名	天明鑄物のまちづくり推進事業	担当部	産業文化スポーツ部	担当課	文化推進課	担当係	天明鑄物まちづくり係
-------	----------------	-----	-----------	-----	-------	-----	------------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	令和元年度で、天明鑄物づくり体験事業、佐野・芦屋文化交流事業が終了するため、後継事業として、市民及び観光客が気軽に天明鑄物に触れ、興味関心を深める機会を設けた。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	伝統工芸を取り巻く環境には、現代のライフスタイルに合わせた商品開発や海外でのジャパンブームといった伝統工芸品が持つ可能性を再認識し、新しい活用法を見出そうとする動きがある。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	天明鑄物のPRが進み、人々が再認識し始めている中で、作品がもっと人の目に留まる機会を作るべき、茶釜に視点を当て、市内で気軽に茶道に親しむ場所や機会があると良いといった意見が、市民や議会から寄せられている。また、「天明鑄物」の商標権侵害を危惧する声も出ている。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	鑄物事業者、商工会議所と連携して、地域団体商標登録を出願できた。 第3次天明鑄物のまちづくり推進計画を策定し、今後4年間の取組方針をまとめた。

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案	人々が天明鑄物に触れ、その素晴らしさを認識することは、天明鑄物を将来まで継承する原動力となるとともに、茶道や華道のような天明鑄物を活用した文化の振興にもつながる。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案	天明鑄物を押し出す取り組みは、まだ始動して日が浅く、今後も鑄物事業者、文化関係者、ボランティア等の事業に関わる関係者との連携を深める必要があり、モデル的な各種事業が定着するまでは、市が直接関与する必要がある。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案	天明鑄物が世の中に浸透し、技術や製品が将来まで継承されるには、市内外を問わず多くの人の関与が必要である。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がある程度ある	理由・改善案	事業を行うことは、対象となる人の天明鑄物に対する関心を深めるが、それだけではなく、事業を実施することが天明鑄物のPRとなり、直接の対象者ではない人々へのはたらきかけにもなるので、成果を出すことができる。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案	類似事務事業名
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案	受益者負担も考慮した事業費を算定している。 商標登録に関する経費については、佐野商工会議所との連携をとっている。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	現在の受益者負担は適正である	理由・改善案	イベントにおいては、受益者負担も考慮した事業費を算定している。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？) 天明鑄物の知名度が上がり、鑄物作品の需要増等の効果がみられるようになった状態			

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																					
現状維持(従来通り実施) * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		○	×																			
	低下		×	×																			

事務事業名		天明鑄物地域おこし協力隊員設置事業					評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)	
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり					担当	担当部	産業文化スポーツ部	担当課	文化推進課
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり					組織	担当係	天明鑄物まちづくり係	担当課長名	上岡幸宏
	施策	1 文化芸術活動の推進					新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	1 文化芸術活動の推進					実施計画事業・一般事業		実施計画事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	2034	一般	2	1	17	天明鑄物地域おこし協力隊員設置事業					
	事業区分						市単独事業・国県補助事業		市単独事業		
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	H28年度～ 年度		根拠法令 条例等	佐野市地域おこし協力隊 設置要綱		任意的事業・義務的事業		任意的事業	
							実施方法		直営		
							事業分類		講座・教室・イベント等開催事業		
						リーディングプロジェクト		該当			
						市長市政公約					

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)												
事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)					令和3年度実績(令和3年度に行った主な活動内容)							
総務省の「地域おこし協力隊」の制度を活用し、人口減少及び高齢化が進む本市の区域において3大都市圏から人材を誘致し、地域での活動に協力してもらう。 特に、将来への継承について課題を持つ天明鑄物について、広くPRすることを任務とする活動をしてもらう。					活動指標		単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)
					イベント等の開催回数		回	2	5	3	0	0
					講座開催		回	0	0	0	0	0
② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)												
市民					対象指標		単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)
人口					人		120,018	119,348	118,450	117,706	116,982	
目的												
③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)					成果指標		単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)
天明鑄物の歴史、貴重な文化財としての価値や製品としての魅力を知ってもらう。					天明鑄物フェイスブックアクセス数		件	124,905	51,739	12,106	7,838	41,525
④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)												
特色ある地域資源の有効活用を図る。					上位成果指標		単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)
天明鑄物フェイスブックアクセス数					件		124,905	51,739	12,106	7,838	41,525	

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)		H30年度(実績)		R1年度(実績)		R2年度(実績)		R3年度(実績)	
	国庫支出金	千円										
	県支出金	千円										
	地方債	千円										
	その他	千円	7		5		4		7		7	
	一般財源	千円	3,671		3,511		2,130		3,324		3,465	
	事業費計(A)	千円	3,678		3,516		2,134		3,331		3,472	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			1報酬	1,992	1報酬	1,992	1報酬	1,162	1報酬	1,992	1報酬	1,864
			4共済費	339	4共済費	328	4共済費	192	3職員期末手当等	432	3職員手当	438
9旅費			61	9旅費	107	9旅費	15	4共済費	412	4共済費	386	
11需用費			147	12役員費	25	11需用費	38	7報償費	6	8旅費	27	
12役員費			18	14使用料及び賃借料	1,020	12役員費	71	8旅費	31	10需用費	112	
14使用料及び賃借料			1,103			14使用料及び賃借料	706	10需用費	55	11役員費	1	
19負担金、補助及び交付金			11					12委託料	39	12委託料	50	
						13使用料及び賃借料	594	13使用料及び賃借料	594			
正規職員従事人数	人	1		1		1		1		1		
のべ業務時間	時間	240		240		200		240		240		
人件費計(B)	千円	916		917		763		873		873		
トータルコスト(A)+(B)	千円	4,594		4,433		2,897		4,204		4,345		

B表(事後評価シート)

事務事業名	天明鑄物地域おこし協力隊員設置事業	担当部	産業文化スポーツ部	担当課	文化推進課	担当係	天明鑄物まちづくり係
-------	-------------------	-----	-----------	-----	-------	-----	------------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成28年から、都市から地方への移住・交流の機運の高まりの中、都市に住む住民が地方に移り住み、その地域の住民とともに地域の課題に取り組む「地域おこし協力隊」を活用する動きが全国的に見られるようになった。そこで、天明鑄物の振興にこの制度を活用して、地域の活性化を図ることとした。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	協力隊の制度を活用した取組が、全国及び栃木県内で増加している。また、天明鑄物に関しては、職人と隊員とが連携した活動をするにより、職人の意識の変化やメディアへの登場回数が増え、人々の関心も徐々に増してきている。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	議会において、天明鑄物を全国にPRすることや全国の鑄物師が本市で活動することができる工房の設置等、質問が出ている。鑄物関係者からは、市が天明鑄物のPRに力を入れるようになったことに対して、一定の評価をし協力を得ることができている。また、専用ホームページやフェイスブックを見た人からの問合せ等も来るようになり、市内外で興味を持ってくれる人が増えていることがわかる。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案 天明鑄物は本市を代表する地域資源であり、歴史的・文化的資源でもある。地域おこし協力隊の制度を活用し、全国へ天明鑄物をPRすることは、人々が文化、芸術に触れる機会の増加につながるものであり、交流人口・定住人口の増加が期待できる。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案 地域おこし協力隊は、国の制度であり、市として隊員の活動について助言や支援を行う責務がある。また、天明鑄物のまちづくりを進めるうえで、民間感覚の自由な発想で活動する隊員と市が連携して事業を行うことは有効である。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案 都市住民であった隊員が、本市に居住し、天明鑄物の振興という課題に取り組み、その様子を発信することは、移住定住への足掛かりと地域の活性化につながる。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がかなりある	理由・改善案 フェイスブック等の反応や隊員の活動状況から、より効果的なPRの方法を検討することで、天明鑄物の認知度向上につながる可能性がある。また、新商品開発や鑄物師間の連携についても多くの可能性を含んでいる。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はあるが、統合・連携できない	理由・改善案 類似事務事業名 各種地域おこし協力隊員設置事業 他の事業の地域おこし協力隊との連携は、それぞれの活動に相乗効果を生んでいる。しかし、与えられている任務は異なっており、統合すべきものではない。 *類似事務事業があれば、名称を記入
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案 事業費、人件費ともに必要最小限にとどめている。事業費はやり方を工夫して予算内で効果を上げるよう努めており、これ以上の削減はできない。
公平性 評価	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？ 事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	受益者負担を求めない	理由・改善案 天明鑄物のPR効果による受益者は、市民や観光客、あるいは鑄物業者であるが、現在の取り組みは、天明鑄物に関する情報発信が主であり、受益者負担を求めものではない。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか?) 鑄物産地として全国に知れ渡り、本市に定住人口の増加が図られた場合は終了することができる。		

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																							
事業のやり方改善(成果向上の見直し) *評価結果に基づいた改革改善案を記入します。(複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。) ・隊員募集の際のミッションの絞り込みを含めた要項内容の見直し ・情報発信の方法の見直し	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td colspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上		○		維持			×	低下		×	×	隊員募集要項で、ミッションや処遇等、多淫に求めることを細かく提示することで、応募者に市の考え方を丁寧に伝え、活動に対する隊員と市間の乖離を最小限にする。
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上		○																						
	維持			×																					
	低下		×	×																					

事務事業名		佐野ルネッサンス鑄金展開催事業					評価区分(事前評価・事後評価)		事後評価(A・B表)		
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり					担当	担当部	産業文化スポーツ部	担当課	文化推進課
	政 策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり					組織	担当係	天明鑄物まちづくり係	担当課長名	上岡幸宏
	施 策	1 文化芸術活動の推進					新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	1 文化芸術活動の推進					実施計画事業・一般事業		実施計画事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	2034	一般	2	1	17	佐野ルネッサンス鑄金展開催事業					
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	H18年度～ 年度		根拠法令等	佐野市補助金等交付規則 佐野ルネッサンス鑄金展交付金交付要領					
					事業区分		市単独事業・国県補助事業		市単独事業		
							任意的事業・義務的事业		任意的事業		
						実施方法		一部委託			
						事業分類		講座・教室・イベント等開催事業			
						リーディングプロジェクト		該当			
						市長市政公約					

1. 事務事業の現状把握[DO]

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)										
事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)			令和3年度実績(令和3年度に行った主な活動内容)							
<p>天明鑄物のふるさと佐野において、全国に向けて鑄金作品を公募し、入選作品の展示を行う。また、展示に併せ関連事業を行い、特色のある文化の街を全国にアピールする。</p> <p>鑄金展は3年に一度の開催で、鑄金展を開催しない年には、鑄物に関連した事業を開催している。</p> <p>鑄金展を円滑に運営するため、関係する団体等の役員、市関係職員で構成された組織である「佐野ルネッサンス鑄金展実行委員会」を設けている。</p>			<p>R4に開催する第10回展の開催に向けた実行委員会開催(1回)と準備鑄金展の今後について、市としての考え方をまとめ、実行委員会に諮った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第10回展の開催方法の変更(公募展から大賞作品展へ。会場の変更、会期の短縮) ・第10回展をもって、鑄金展を終了し、天明鑄物振興に軸足を移す。 ・鑄金展のレガシーを受け継ぐ新たな取組をする。 							
			活動指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)	
			募集要項の発送件数	件	52	0	1,021	0	0	
			チラシ発行枚数	件	30,000	380	30,000	0	0	
②対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)										
全国の鑄金作家 美術愛好者			対象指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)	
			鑄金作家及び関係者等への募集要項の発送		52	0	1,021	0	0	
			個人向けのチラシ発送枚数		959	380	30,000	0	0	
③意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)										
鑄金展を鑄金造型の自由な発表の場と捉え、作品を出品してもらい、歴史ある鑄物の街で作家間の交流が図られる。多くの人が鑄金展を鑑賞し、鑄金作品を身近に感じることで、天明鑄物への興味関心を高めてもらう。			成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)	
			出品者数	人	54	-	-	0	-	
			展示会入場者数	人	4,505	-	-	0	-	
			関連事業	回	1	1	2	0	0	
④結果(どのような結果に結びつきますか?)										
特色ある地域資源の有効活用を図る。			上位成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)	
			天明鑄物フェイスブックアクセス数	件	124,905	51,739	12,106	7,838	41,525	

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)		H30年度(実績)		R1年度(実績)		R2年度(実績)		R3年度(実績)	
	国庫支出金	千円										
	県支出金	千円										
	地方債	千円										
	その他	千円										
	一般財源	千円	9,111		15		516		0		340	
	事業費計(A)	千円	9,111		15		516		0		340	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			19 交付金	9,111	12 役務費	15	8 報償費	100			18 交付金	340
							9 旅費	29				
						11 需用費	5					
						13 委託料	382					
人件費	人	2		2		2		2		2		
のべ業務時間	時間	3,684		140		1,008		20		130		
人件費計(B)	千円	14,058		535		3,846		73		473		
トータルコスト(A)+(B)	千円	23,169		550		4,362		73		813		

事務事業名	佐野ルネッサンス鑄金展開催事業	担当部	産業文化スポーツ部	担当課	文化推進課	担当係	天明鑄物まちづくり係
-------	-----------------	-----	-----------	-----	-------	-----	------------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成10年度に、旧佐野市の市制55周年記念事業として、第1回を開催した。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	財政的な事情により、平成15年度から一時休止していたが、合併を機に更なる芸術文化向上を目指し、平成18年度に再開を決定した。 美術界において、鑄金作家は減少傾向にあり、鑄金展への出品者数は、H21年の第5回展をピークに減少している。しかし、来場者数は、減少傾向の時期があったものの、近年、増加しており、天明鑄物振興により関心を持つ人が増えてきている様子がうかがえる。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	市民からの強い要望で再開した。アンケート結果では、鑄物のすばらしさが理解できた、購入している作品の常設展示をして欲しい、まちづくりに活かして欲しいといった意見が寄せられている。 出品者や審査委員からは、鑄金に特化した公募展は、全国でこの鑄金展だけであり、鑄金家や作家を志す学生には大きな励みとなっているので、ぜひ続けてほしいとの声がある。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善(成果向上の見直し)	鑄金展の今後について、天明鑄物のまちづくりという視点で検討し、令和4年度の10回展をもって事業終了とし、鑄金展のレガシィを引き継ぐ取組を進めることとし、実行委員会からも了承を得た。
事業のやり方改善(コストの見直し)	

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びつきが見直しの余地がある	理由・改善案	国内の鑄金作家やその作品が本市に一堂に会することは、天明鑄物のふるさとが交流の拠点となり、ひいては本市の芸術文化の振興に貢献するものである。そのために、募集要項の見直しや開催内容の検討など、より魅力ある展覧会に向けた工夫をしている。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案	文化・芸術は豊かな人間性を醸成する。市民がより高い水準の文化・芸術に触れる機会を提供することは意義のあることである。鑄金展開催は天明鑄物のふるさと佐野をアピールすることで、天明鑄物を次代につなぐことにつながり、それは市の責務である。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案	天明鑄物の街に全国の鑄金作家の作品が集まり、切磋琢磨し、それを多くの市民が鑑賞することは、国内の美術界の活性化とともに、本市の文化を益々豊かになることにつながる。そのことで、天明鑄物への人々の関心も高まり、今後の継承につながる。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がない	理由・改善案	作家等からは存続の声があるものの、高齢化や美術学生の鑄金離れが進んでおり、出品数が減少する中、従来の公募展として継続していくには、財政的負担が増大している。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案	類似事務事業名
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案	事業費は回を追うごとに削減されており、その都度、展覧会の質を落とさない範囲での事業内容を絞り込んでおり、これ以上の削減は不可能である。実行委員会として協賛金の募集など自助努力も必要である。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？ 事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	現在の受益者負担は適正である	理由・改善案	従来、出品者に対して、出品料の見直しをし、適正価格である。また、レセプション参加者から負担金を徴している。観覧料については、無料にすることで、鑄物に関心の少ない人でも足を運んでもらえることが見込め、多くの人に門を開くことになるという考え方もあるので、慎重に検討する必要がある。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)			
天明鑄物が全国に知れ渡り、市外から鑄金作家が市内に移住するなど一定の効果が現れたり、他市においても鑄金展が開催されるなど、本市での開催の必要性がなくなったときは、終了となる。あるいは、天明鑄物のまちづくりをするうえで、鑄金展を上回る効果が期待できる事業を始める時は終了となる。				

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																					
事業のやり方改善(コストの見直し) 事業終了 * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。(複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。) ①R4年度は、公募展の代わりに大賞作品展を、会場と期間を変更して開催する ②その後、鑄金展そのものは終了とし、鑄金展のレガシィを残すために、多くの鑄金作家が所属する(公社)日本工芸会の事業への参画を検討する	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		○	×																			
	低下		×	×																			

事務事業名		子どもふれあい文化芸術事業					評価区分(事前評価・事後評価)		事後評価(A・B表)		
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり					担当組織	担当部	産業文化ポーツ部	担当課	文化推進課
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり					担当係	文化推進係		担当課長名	上岡幸宏
	施策	1 文化芸術活動の推進					新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	1 文化芸術活動の推進					実施計画事業・一般事業		実施計画事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	2103	1	2	1	17	子どもふれあい文化芸術事業					
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	H30年度～ 年度		根拠法令 条例等	事業区分		市単独事業・国県補助事業		市単独事業	
								任意的事業・義務的事業		任意的事業	
								実施方法		直営	
								事業分類		講座・教室・イベント等開催事業	
								リーディングプロジェクト		該当	
								市長市政公約			

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)						
事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)		令和3年度実績(令和3年度に行った主な活動内容)				
子どもたちの豊かな心を育むため、市内小学校を訪問し、間近で本物の音楽、演劇、美術等に触れる機会を提供する「アウトリーチ事業」を開催する。 市の事業にあつては、指導者を地元在住や地元出身のアーティストに依頼することで、子どもたちの文化芸術に対する思いや、地域との関わりがより身近に感じられるようになる。 国の事業にあつては、オーケストラ等市よりも大規模な事業開催が期待できる。		(1) 市単独事業(延べ11校、7校実施、2校中止) 赤見小(6月)、氷室小(7月)、吾妻小(11月)、あそ野学園(12月)、栃本小(12月)、葛生小(1月)、常盤小(2月)、界小(中止)、葛生地区合同(中止) (2) 文化庁事業(延べ6校実施) ① 巡回公演事業 南中(10月)、赤見小(10月)、吾妻小(11月) ② 派遣事業 田沼小(6月)、氷室小(10月)、田沼小(6月2回)、赤見小(11月、12月、1月の3回) ③ 芸術家派遣事業 実施校なし				
		活動指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)
		申込書通知数	校		26	26
						21
						21
② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)						
市の事業にあつては、対象学年は学校との調整により決定する。国の事業にあつては、対象学年の制約は特にならない。		対象指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)
		参加した児童数	人		1,100	1,200
						604
						1,351
③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)						
優れた文化芸術の鑑賞の機会を提供し、子どもたちの文化環境をより充実したものにする。		成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)
		参加した児童数	人		1,100	1,200
						604
						1,351
④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)						
文化芸術に触れ、親しみ、参加・体験する機会を拡充する。 また、文化芸術活動が活発化している状態にする。		上位成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)
		実施小学校数	校		10	20
						16
						13

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費	財源内訳	単位	H29年度(実績)		H30年度(実績)		R1年度(実績)		R2年度(実績)		R3年度(実績)	
			項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
投入量	国庫支出金	千円										
	県支出金	千円										
	地方債	千円										
	その他	千円										
	一般財源	千円		820		570		45		300		
	事業費計(A)	千円		0	820	570	45	300				
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			報償費	780	報償費	555	報償費	45	報償費	300		
			需用費	40	需用費	15						
	正規職員従事人数	人		2		2		2		3		
のべ業務時間	時間		50		100		60		503			
人件費計(B)	千円		0	191	382	218	1,829					
トータルコスト(A)+(B)	千円		0	1,011	952	263	2,129					

事務事業名	子どもふれあい文化芸術事業	担当部	産業文化ポーツ部	担当課	文化推進課	担当係	文化推進係
-------	---------------	-----	----------	-----	-------	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	地域文化の振興を図るためには、子どもの頃から文化芸術に触れる機会が必要である。特に、地域文化の継承者となる可能性が高い小学生の頃から、アーティストの演奏や専門家の話を聞き、直接体験できる「アウトリーチ事業」が重要であることから市単独事業を企画した。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	国の文化審議会において、豊かな人間性と多様な個性を育むためには、「学校や家庭、地域において子どもたちが参加、体験できる様々な文化芸術活動の機会を充実することが重要である」とされている。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	これまでの「子ども芸術鑑賞事業」は中学2年生を対象としたもので、もっと早い段階である小学生のうちから、文化芸術に触れる機会の提供が必要であると言われていた。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	理由・改善案	プロの演奏等を間近に観て、触れることは、次代を担う子どもたちが豊かな心を育むために必要であり、政策名「歴史・文化を守り育てるまちづくり」、施策名「文化芸術活動の推進」に結びついている。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	理由・改善案	アウトリーチ事業は、普段生活している学校内で専門性の高い文化芸術に触れる機会を提供するものである。従来から国で同事業を行っていたが、市でも同趣旨の事業を行うことにより、裾野を広げることができる。また、市の事業は講師を市在住者・市出身者を原則としているため、地域と芸術との関わりを身近に感じられる効果も期待できる。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	理由・改善案	子どもの頃から間近に本物の音楽や美術等に触れることが重要と言われており、子どもたちの感性や創造力を養うためには、小学生を対象にアウトリーチ事業を行うことが必要である。また、これまで実施してきた中学生対象の「子ども芸術鑑賞事業」につなげていく事業にもなるため、妥当性が高い。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	理由・改善案	市のアウトリーチ事業は、実施の際、学校側と指導者の日程調整が必要である。また、学校側で希望するジャンルとの調整もあるため、早い段階からの調整が課題となる。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業名	
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	理由・改善案	アウトリーチを行う指導者の報酬がほとんどなので、これ以上の削減の余地はない。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	理由・改善案	小学生の文化芸術意識を高める事業であり、受益者負担を求めるものではない。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？) 元在住・地元出身のプロの演奏家や芸術家が、ボランティアでアウトリーチ事業を実施するようになれば、終了できる。		

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																							
現状維持(従来通り実施) * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。(複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○	×																					
	低下		×	×																					

事務事業名		全国大会等出場者支援事業					評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)		
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり					事業区分	担当組織	担当部	産業文化ポーツ部	担当課	文化推進課
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり						担当係	文化推進係	担当課長名	上岡幸宏	
	施策	1 文化芸術活動の推進						新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	1 文化芸術活動の推進						実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名						
	2012	一般	2	1	17	全国大会等出場者支援事業						
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	平成14年度～ 年度			根拠法令 条例等	市単独事業・国県補助事業		市単独事業			
							任意的事業・義務的事業		任意的事業			
							実施方法		直営			
							事業分類		現金・現物給付事業			
							リーディングプロジェクト		該当なし			
							市長市政公約					

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)										
事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)			令和3年度実績(令和3年度に行った主な活動内容)							
小学校から高等学校までの児童・生徒を対象として、文化芸術関係の全国大会等に出場する際に、奨励費を交付し、費用負担の軽減を図るとともに文化芸術活動を支援する。当該児童・生徒が県内予選を通過して全国大会等へ出場している。 今まで以上に文化芸術活動の支援をするため、平成24年度に交付要件の緩和等、事業内容の見直しを図り、平成25年度から「奨励費」として実施している。			文化関係部活動の状況調査及び奨励費案内 令和3年4月20日～令和3年5月10日 佐野市文化芸術活動全国大会等出場奨励費案内 令和3年11月1日 第21回高校生ものづくりコンテスト全国大会(電子回路組立部門) 壮途金贈呈式 令和3年11月2日 対象 栃木県立佐野松桜高等学校 情報制御科 生徒1名							
			活動指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)	
			全国大会等に出場の個人(小・中・高生)	人	3	1	4	-	1	
			全国大会等に出場の団体(小・中・高生)	団体	1	1	3	-	-	
② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)										
小学校から高等学校までの児童・生徒で、芸術文化部門の全国大会等に出場する個人及び団体。			対象指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)	
			市内の小・中・高生(個人)	人	13,652	13,670	-	13,027	12,771	
			市内の小・中・高生(団体)	団体	139	120	-	108	121	
③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)										
全国大会等出場者の負担軽減及び出場者を激励し、芸術文化活動を奨励することを目的とする。			成果指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)	
			奨励金の実績額	千円	45	20	25	-	5	
④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)										
文化芸術に触れ、親しみ、参加・体験する機会を拡充する。 また、文化芸術活動の発表の場と情報を提供し、文化芸術活動を担う人材を育成する。			上位成果指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)	
			何らかの文化活動を行うか、美術館等での講演・展示会などに参加・鑑賞している人の割合	%		52.2	51.2	39.3	44.2	

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)			
	国庫支出金	千円								
	県支出金	千円								
	地方債	千円								
	その他	千円								
	一般財源	千円	45	20	25	0	5			
	事業費計(A)	千円	45	20	25	0	5			
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			報償費	45	報償費	20	報償費	25	報償費	0
	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1			
のべ業務時間	時間	10	10	10	10	38				
人件費計(B)	千円	38	38	38	36	138				
トータルコスト(A)+(B)	千円	83	58	63	36	143				

事務事業名	全国大会等出場者支援事業	担当部	産業文化ポーツ部	担当課	文化推進課	担当係	文化推進係
-------	--------------	-----	----------	-----	-------	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	スポーツ関係では、昭和58年4月より全国大会等出場費補助金があった。しかし、文化芸術活動分野では、全国大会等に出場しても補助金はなかったため、平成14年度に補助要綱を制定した。平成24年度に見直しを図り、平成25年度からは報償費による奨励費交付に変更した。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	開始当初は対象者がなかったが、最近では、全国高等学校総合文化祭への出場者が出て、随時支援をしている。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	学校の担任先生や校長先生からは、子どもたちの励みになるとともに、活動の助成をしていただき、ありがたいとの意見をいただいている。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案	若い世代に文化・芸術活動を奨励することは、本市の文化・芸術の向上に寄与し、文化・芸術活動の促進に貢献している。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案	若い世代の文化・芸術活動を奨励することは、文化・芸術の向上に必要であり、市が支援するものである。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案	文化・芸術の振興を図っているため、対象は合っている。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がない	理由・改善案	
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案	
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案	現在でも、全国大会等へ出場する際には、学校負担・個人負担が多いので、これ以上の削減は見込めない。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	受益者負担を求めない	理由・改善案	支援であるので、受益者負担を求めない。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか?) 子どもたちの豊かな感情を育み、本市の文化・芸術のレベルを向上させるための事業であり、市の責務として終了はあり得ない			

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																							
現状維持(従来通り実施) * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。(複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td colspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○	×																					
	低下		×	×																					